

## 国際機構論ゼミ（担当：政所大輔）

### 1. ゼミの紹介とねらい

2023 年は、国際連合（国連）が創設されてから 78 年になります。この間、加盟国の数はおよそ 4 倍になり、その活動も安全保障や開発、人権人道、自然災害や気候変動への対処など、大幅に拡大しました。他方、ロシアによるウクライナ侵攻をめぐって安全保障理事会の機能不全が指摘されたように、国連や国際機構に対しては称賛と批判が常に繰り返されてきました。国際社会における国際機構の存在や役割を、私たちはどのように理解することができるのでしょうか。

本ゼミでは、以下の二つを目標とします。第一に、国際機構や制度、規範などに焦点を当てながら、国際社会の政治的な構造や仕組みを理解します。第二に、国際関係論や政治学、社会科学の考え方や研究手法を身に付けます。具体的な研究テーマとしては、国連をはじめとする国際機構、人間の安全保障や保護する責任といった国際規範、制度、レジーム、マルチラテラリズム、グローバル・ガバナンス、難民や国内避難民、国連平和活動、人道危機下の市民保護、国際刑事裁判、キラー・ロボットや核兵器の規制、日本の多国間外交などが考えられます。

### 2. 内容と進め方

2024 年度の 3 年次前期では、Karen A. Mingst, Margaret P. Karns, and Alynna J. Lyon, *The United Nations in the 21st Century*, 6th ed., Routledge, 2022 を基本書として輪読し、担当者に発表してもらいます。その後、質疑応答や全員での議論を通して理解を深めていきます。受講生には、全員、毎回、輪読箇所についてレジュメ（A4 一枚）を作成し提出してもらいます。

2024 年度の 3 年次後期では、久米郁男『原因を推論する—政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013 年を輪読しながら、社会科学の研究を進めるために必要な手法を身に付けます。そのうえで、卒業論文の研究計画となるようなゼミ論文（5000 字程度）を執筆します。

本ゼミの 4 年次では、まず先行研究を批判的に検討しながら、卒業論文の基礎を固めていきます。その後、卒業論文のリサーチ・デザインを作成し、論文執筆に取り掛かります。本ゼミ全体を通して、最終的には社会科学の作法を十分に踏まえた卒業論文の完成を目指します。

### 3. 選考方法と提出書類

以下の二つの書類に基づいて受講生を選考しますので、必ず両方提出してください。

- ① ゼミ希望票に必要事項を記入し、このゼミに参加することで自分をどのように成長させたかについて具体的に書いてください。また、国際機構論 I・II を履修済みかどうかについても記載してください（2024 年 4 月時点で履修済みであることが望ましい）。
- ② 次のエッセイを読み、批判的に考察してください（様式自由、日本語 1000 字程度）。

Richard N. Haass, “The UN’s Unhappy Birthday,” Council on Foreign Relations, 10 September 2020, <https://www.cfr.org/article/uns-unhappy-birthday>.

### 4. その他

状況次第ですが、可能であればゼミ合宿や他大学との合同ゼミなどの課外活動を行うことを考えています。質問などがある場合は、madokoro@kitakyu-u.ac.jp にメールしてください。